

SSH 重点枠 オーストラリア海外研修実施報告

SSH 重点枠の事業として、11月30日（土）より8日間の日程で、オーストラリア海外研修が実施されました。参加者は、本校12名、札幌開成中等教育学校1名、滝川高校2名、北見北斗高校1名の2年生16名、そこに引率として酪農学園大学吉中教授と本校教諭2名を加えた合計19名です。

1日目（11月30日）は、移動日として、新千歳空港を出発し、台北国際空港を経由し、ブリスベン空港へ向かいました。



2日目（12月1日）から、ホームステイの開始です。ブリスベン空港に到着した後、昼食をとり、マレニー州立高校へ向かいました。マレニーでは、先生とホームステイファミリーが我々を待っていてくれました。引き渡しセレモニーの後、生徒たちそれぞれの5泊6日のホームステイが始まりました。



3日目(12月2日)から、いよいよマレニー高校との交流が始まりました。北海道の生徒たちは、オリエンテーション、STEAM授業への参加、BBQランチを通して、マレニーの生徒たちと少しずつ打ち解けました。午後はお互いのこれまでの探究成果について、相互に発表会を行いました。マレニーの生徒はSTEAM授業で取り組んできたソーラークッカーについて、北海道の生徒は国際共同研究の中間発表をプレゼンしました。北海道の生徒たちは、この交流の成果を持ち帰り、自分たちの共同研究をまとめていきます。



4日目（12月3日）のプログラムでは、オーストラリアの固有種との触れ合い体験、メアリーケインクロス熱帯林での実習、マレニー高校でのスクールツアーが行われました。北海道の生徒たちは、普段見ることのない生き物たちとの出会いに感動しながら、日本とオーストラリアの自然環境の共通点と相違点を学びました。



5日目(12月4日)は、1日オーストラリア動物園での研修でした。はじめに、生徒たちは野生動物病院を訪問し、傷ついたコアラの様子を観察しながら、動物たちがどのように運ばれ、治療を受け、野生に戻っていく過程や難しさを学びました。動物園では、クロコダイル、ウォンバット、カンガルー、コアラといったオーストラリアの生態系を代表する動物たちとの出会いや触れ合いの中で、生物多様性を五感で感じる時間となりました。



6日目(12月5日)は、クーラムビーチにて砂浜におけるマイクロプラスチック量の調査を行うと共に、海岸における生態系について学びました。スチロール等のマイクロプラスチックは検出されたものの、ビーチにおけるごみの量やマイクロプラスチック量は北海道の海岸と比較して非常に少ないことに生徒たちは驚いていました。調査の後、フェアウェルセレモニーが行われました。



7日目(12月6日)は、ホストファミリーやマレニー高校の生徒や先生とお別れをし、クイーンズランド博物館で研修を行いました。事前研修でのレポートと関連させながら、オーストラリア大陸の成り立ちとともに、古生物から現代の生態系形成に至る過程を学び、地質時代の変遷の視点からオセアニアの生物多様性を理解する機会となりました。そして、研修団はブリスベン空港を飛び立ち、オーストラリア大陸とお別れをしました。



8日目(12月7日)は、台北国際空港を経由し、新千歳空港へ到着しました。8日間の研修を通して、生徒たちは人の温かさに触れるとともに、生物多様性を五感で理解することができました。生徒たちがこれらの学びを自らの将来に還元してくれることを期待しています。

